
鬼百合 姫百合～百万年の時を越えて～

潤里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼百合 姫百合／百万年の時を越えて／

【NZコード】

N8884Y

【作者名】

潤里

【あらすじ】

親が死んで、兄弟は遺産の話、親の友達は一人も泣かない
そんな人たちに、失望していゝ蒼。

そんな、蒼の前に一人の男が現れ、ついて来て欲しいという…

「昔々

戦国時代引き裂かれた二人の姫と妖…
二人は愛し合っていたのに…引き裂かれた」

男との出会い

全て信じられなくなっていた、去年の夏。不思議な体験をした話をしよう。

「お嬢さん、百合の花言葉を知ってるかい？」

いつもの道を通ると、知らない男が声をかけてきた。

「知りませんが……？」

「そりゃあ、いけない。ついておいで。話してあげよ。」

私は不思議とその男に恐怖を感じなかつた。

それどころか、懐かしさすら感じたほどだ。

その男について行くと、男が急に言つた。

「時間はあるかい？バスにのるが。」

「大丈夫です。暇ですから。」

「なら・・・よかつた・・・」

男は笑つた・・・太陽のようだ

バスの中は涼しく、私たち以外、誰もいなかつた。

一時間、バスに揺り回っていたらつか。

窓の外を見ると、田んぼが広がり、まさに田舎とこゝり感じだつた。

「 もうもう、下つるよ。」

「 はー。」

そこは、本当に東京なのかと疑つてしまひ空気が澄んでいた。

深呼吸を深くしてから、男を田で探した。

「 むーー、ひつちだよ。」

遠くで男が叫んだ。

「 どこに行くんですか？」

「 良い所！」

そして私達は、歩き出した。一本道を。

右手には田んぼ、左手には田舎がたくさん咲いていた。

「 あれこ・・・」

「 それは、白百合といつてですよ。花言葉は純潔。季節は六月～八
月位です。」

「今が旬なんですね。」

「はい。そうです。」

またしばらく歩くと、遠くに山が見えた。

「山に登るよ。」

「・・・え・・・」

「大丈夫！小さい山だから！ちゃん」

「よかつた・・・」

・・・私の名前言つたつけ？・・・この人の名前は何だらう？

「何でいふんですか？お名前。」

「・・・田舎だよ。」

田舎さんは少し考えてから、悲しそうに言った。それが、どうして
なのかはわからない。

「田舎さんは、・・・」

「田舎って呼び捨てでいいよ」

「田舎は、この辺に住んでるの？」

「んまあ、そうかな。」

「んまあ、つて・・・」

私は、笑った。さつきまで親が死んで遺産の事ばかり考える兄と姉のことを恨んだり、

だれも母のために泣かない人々を見て、誰も信じないと思つて泣いていたのが嘘のように。

「やつと、笑つた。笑つてた方がきつと良い事があるよー。」

「やつかな・・・?」

「うんー。やつと・・・やつとなー。」

「じゃあ、笑つていよー。」

そんな話をしながら山を登つた。小そこ山だけぢやつぱり、体力がない私にはとても辛かつた。

「ちよつと、休憩しよう・・・。」

「うそ、やうだね。」

百合はまったく疲れてない様子だ。子供の頃よく登つたのだらつ。

百合は何者なのだろう?そして、私になにを言いたいのだろう?

止まつた時計の針が動きだそうとしているのを、私はまだ知らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8884y/>

鬼百合 姫百合～百万年の時を越えて～

2011年11月26日19時47分発行